

下野市立細谷小学校

1 学校課題

自ら学び、考え、課題解決できる児童の育成 ～言葉をつなぎ、思考を深める指導を目指して～

2 研究計画

(1) 主題設定の理由

本主題の下、昨年度から学力向上推進リーダー(以下、推進リーダー)との授業づくりを中核としながら、研修の成果を通常の授業に生かして教師の授業改善及び児童の学びの質を高めていくことを目指し研究してきた。新学習指導要領に沿った授業づくりへの理解が進んだり、ICT活用技術が向上したり、児童の読書習慣が向上したりするなどの成果が見られた。しかし、一人一人に目が届く小規模校の良さゆえに、児童が主体的に課題解決できる授業づくりに課題が見られ、教師のコーディネート力をさらに磨いていくことが大切であるとの結論に至った。

そこで、本年度は昨年度の研究を継続させ、児童の主体性を伸ばしながら確かな学力の定着・向上を目指して授業内容を研究・改善していきたいと考えた。特に、教師が児童の発言をつなぐコーディネート力の向上に重点を置いて授業力を磨き、児童の学力向上を目指した。

(2) 研究の仮説

教師が児童のつぶやきや考えをつなぐ授業のコーディネート力が高まれば、児童の課題に対する多様な発言が増え、見方や考え方が豊かになり、自ら学び考え課題解決できる力を伸ばすことができるであろう。

3 研究内容

(1) 研究での主な実践内容

① 主体的な学びのある授業づくり

・教科のねらいを達成し、授業に広がりや深みを増すための教材理解・教材研究

学習指導要領をもとに児童に身に付けさせたい資質・能力や働かせたい見方・考え方を分析し、授業の到達目標が明確な「授業計画シート」を活用した授業づくりを定期的実施した。関心を高めたり学習の見通しやつながりを持たせたりしながら主体的な学びの実現を目指した。

教材研究の中で、児童の反応をあらかじめ予想し、効果的な問い返しを考えるとともに、誤答を生かしたり、生かしたい児童を活躍させたりするなど、授業を充実させる工夫について考えた。また、推進リーダーの授業参観シートを校内で回覧し、他学年の授業内容や授業展開・児童の発言の取り上げ方等に対する助言を共有し、個々の教師の授業力の向上につなげた。

・言語活動の充実を図るための教師のコーディネート力の向上

主体的に学習に取り組めるような動機付けを行い、考えを「伝える」「練り合う」言語活動を充実させ、「納得解が得られるよう考える」という「細谷小 学習スタイル」を目指した。教師が児童の発言やつぶやきをよく聴き、問い返したり、発言をつないだりしながら、自分と友達の考えを比較・検討させ、多様な手段で説明させながら課題解決させるためのコーディネート力の向上に努めた。さらに、練り合いの時間を充分確保できるように「タイムマネジメント」を意識した授業づくりを目指した。

・題意を把握する力を養う

解決に必要な数や言葉に線を引かせたり、問題の解釈を全体で共有・確認したりして、日常的に題意を正しく把握する指導を繰り返す、正しい理解のもと、主体的に課題解決できる力の育成を目指した。

② 学びに向かう集団づくり

・学びの主体性・学習習慣づくり

学習の仕方の基本を身に付けさせるとともに、生活に根ざした児童の興味関心を引く内容を導入として提示し、各単位時間のめあてを児童とともに設定することで、学習に対する主体性がより高まるように取り組んだ。一方で、授業のふり返りに書くべき具体例について児童一人一人に配布して随時確認させ、学びの自覚化や、次時への学習意欲の喚起につなげた。また、学校での学びをより定着させるため、保護者に「家庭学習のすすめ」のリーフレットを配布し、具体的な取り組み方や身に付けさせたい学習習慣を示し、啓発を行った。中学校区で同時に実施するぐんぐんウィーク(家庭学習強調週間)も活用し、家庭と協力しながら児童の学習習慣の形成に努めた。

③ 児童の読解力や課題解決力向上につなぐ読書指導、読書習慣

・正しく読む力を身に付けるためのねらいに即した読書指導、読書習慣の形成

週1回の業間の読書タイムで読書時間を確保し、児童が落ち着いて読書に親しみ、さまざまな教科の発展読書ができるようにした。全校的な取組として、クラスや縦割り班で1冊の本を順番に家庭に持ち帰る「家読リレー」を実施し、児童と保護者が感想を記入しながら、読書への意欲喚起を行った。

(2) 研究授業を通した主題への取組

月日	学年 単元名	課題追究のための手立て等
6/30	4年 国語「新聞を作ろう」 	<ul style="list-style-type: none"> ・他校に細谷小の良さを伝えるという目的意識を持たせ、主体的に学習に取り組ませた。 ・自分の意見を持たせた後、ペアで思いを伝え合い、互いの相異点・共通点について考えた。 ・担任が児童一人一人の思いが固まるのをじっくりと時間をかけて待った上で、トップ記事にしたい記事の吟味とその理由について、話し合いの補助となるキーワードを提示し、言語活動の充実を目指した。 ・既習内容や新聞の構成図を掲示し、学びの系統性を示した。 ・授業観察の視点をしぼり、時系列で成果と課題を協議した。
11/24	3年 算数「分数」 	<ul style="list-style-type: none"> ・既習の「小数」の学習との関連を図り、学習内容を想起させながら同分母の分数の加法の計算方法について考えさせた。 ・児童とともにめあてを設定し、主体的に課題に取り組めるようにした。導入では、具体物を用いて日常に即した問題場面の設定を行った。 ・リットルますの図・数直線のミニプリントを準備し、さまざまな方法で課題解決できるように支援した。 ・児童の実態から、フリートーク方式で考えを伝え合うことで、自分の考えに自信をもって発言させた。多様な考えを認め合えるよう教師が問い返したりつぶやきを拾ったりしながら、児童の言葉をつないで思考を深めさせた。 ・授業観察の視点と「主・対・深」の学びの視点を関連させて授業研究会を行った。

4 本年度の成果と課題

(1) 成果

- ① 身に付けさせたい資質能力や働かせたい見方・考え方を分析した「授業計画シート」を作成し、既習の学びを本時につなぐ系統的な指導を目指したことで、児童が自ら考え、課題を解決するための基礎的基本的な知識・技能の定着を図る授業づくりができています。
- ② 授業で使用させたい「発言の型」を示し意識させることによって、児童が自身の考えをわかりやすく表現したり、他者の意見を踏まえて発言したりできるようになってきた。そのつぶやきや発言を、教師がコーディネートするスキルも向上している。
- ③ 学習のめあてを児童と教師で対話しながら設定することで意欲的に授業に取り組ませることができ、問題文に印付けをして必要な情報を整理することで題意を把握しやすくできるようになった。また、「ふり返りの具体例」を示したり、キーワードや書き出しを提示したりすることで、児童のふり返りの視点が定まり、学びを自覚することができてきた。

(2) 課題

- ① 児童の多様な考えを引き出すための学習形態の工夫や発問の精選・吟味について、また、児童相互の意見交流の場で、児童相互の意見をつなぎながら思考を深めさせていくために有効な具体的支援について、さらに研修していく必要がある。
- ② 学校での本の読書量をさらに増やし家庭での読書習慣が定着できるように、教師がどのように関わり、家庭へどのように啓発していくか、また、より深い感想を持たせるためにどのように読書指導していくべきか、具体的な手立てを検討していく必要がある。

